

研究・調査報告書

分類番号	報告書番号	担当
A-131	20-018	滋賀医科大学社会医学講座公衆衛生学部門 三浦克之
題名 (原題/訳) The effectiveness of smoking cessation, alcohol reduction, diet and physical activity interventions in changing behaviours during pregnancy: A systemic review of systematic reviews 妊娠期間中の行動変容における禁煙、減酒、食事、身体活動の介入効果：システマティックレビューのシステマティックレビュー		
執筆者 Heslehurst N, Hayes L, Jones D, Newham J, Olajide J, McLeman L, et al.		
掲載誌 PLoS One. 2020 May 29;15(5):e0232774.doi: 10.1371/journal.pone.0232774. eCollection 2020.		
キーワード	PMID	
システマティックレビューのシステマティックレビュー、妊娠期の行動変容	32469872	
要 旨 目的： 妊娠期は行動変容のための良い時期であり、多数のガイドラインは妊娠期女性を行動介入の対象としている。本研究の目的は、1) 妊娠期女性において行動変容をさせる介入の効果を調査すること、2) 妊娠のアウトカムを改善させるための介入の効果を調査すること、3) 介入のうち行動に関する領域を通じた効果と関連する共通の介入内容あるいは行動技術を探ることである。		
方法： 妊娠期に実施された喫煙、飲酒、食事あるいは身体活動をアウトカムとする介入について報告しているシステマティックレビューを 2008 年から 14 のデータベースを対象に調査した。それぞれのレビューの質は Joanna Briggs Institute critical appraisal tool for umbrella reviews を用いて評価した。		
結果： 109 件が妊娠期間中に実施された行動変容のための介入についてのシステマティックレビューであり、そのうち 36 件は行動のアウトカムを報告していた。そのうち喫煙は 16 件、飲酒は 4 件、食事や身体活動については 16 件であった。36 件のうち 67% が高品質なレビューであり、介入は概ね高所得国において実施されていた。全体として、健康的な食事行動の介入群については、果物や野菜の摂取を増やし、炭水化物を減らしたという一貫的なエビデンスが存在していた。また、METs や VO ₂ max といった身体活動指標を高めたり、妊娠期間中の脂質摂取や喫煙を減らしたという一貫したエビデンスが存在していた。しかしながら、エネルギー、タンパク質、微小栄養素、禁煙、飲酒についてのレビューについては、報告の一貫性を欠いていた。		
結論： 妊娠期の食習慣を改善に関する介入の結果に関するエビデンスは一貫していたが、食事に関するレビューの多くは、行動変容の結果より、むしろ健康関連指標のアウトカム（例：妊娠糖尿病、在胎不当過大児）について報告していた。一方で、低・中所得国を対象とした飲酒行動への介入については報告がわずかであり、将来の優先的な研究対象である。		